

1 PLAN(目的・概要)

政策名		港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり	4年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名				成果	コスト		
事務事業名		防潮壁改良事業	継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	防潮壁(護岸)				連携課	
	意図(どういう状態にしたいか)	地震・津波対策および老朽化対策として防潮壁(護岸)を改良し、防護機能を回復・強化する。				事業期間	平成19年度～
概要		整備地区:大手ふ頭・中川口地区、築地・ガーデンふ頭地区、築地東ふ頭地区、大江ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区、大江川地区、船見ふ頭地区、稲永ふ頭地区 内容:地震・津波対策および老朽化対策 事業手法:防災・安全交付金(高潮対策事業)、補助(海岸メンテナンス事業)				根拠法令等	社会資本整備重点計画 法、海岸保全基本計画
						実施義務	☒ 有 ☐ 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和5年度に実施した内容・結果	大手ふ頭地区、ガーデンふ頭地区、築地東ふ頭地区、大江川地区、昭和ふ頭地区の防潮壁改良を行うとともに、中川口地区、築地・ガーデンふ頭地区、大江ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区の土地利用者との調整および設計等を行った。 さらに、老朽化対策として、船見ふ頭地区の防潮壁改良を行った。						
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	693,046	686,464	1,329,035	1,595,038	1,637,881	
人件費	千円	3,486	6,504	20,340	20,430	20,475	
合計	千円	696,532	692,968	1,349,375	1,615,468	1,658,356	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	達成度	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
整備延長(km)	目標	1.74	2.23	3.03	3.84	4.20	79%	整備延長は改良が完了した延長である。	
	実績	1.30	1.50	2.20	2.50	3.30			
【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)		順調　やや遅れ　遅れ						
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(5年間)								
5年度までの達成状況に関する説明 (要因・課題)		全地区で事業着手しているものの、地盤改良工に想定外の費用がかかったことおよび土地利用者との調整に時間を要したため進捗にやや遅れが生じている。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？	○	背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高いと考えている。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境に あっているか？	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？	○	防潮壁の改良による機能強化は上位施策である「地震・津波対策の充実・強化」に貢献すると考えている。 令和5年度は整備延長は進んだものの、目標値まで達成できなかった。						
	期待どおりの成果が得られているか？	△							
効率性	最小のコストとなっているか？	○	コストが最小になるよう経済的な対策断面や施工方法の検討を行い事業を進めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	6年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
	継続	拡大	拡大	背後地域の生命・財産を守る重要な施策であることから、一層の進捗を図る必要がある。
		資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。		
今後の課題等			6年度以降の取組	
防潮壁背後には事務所等が立地しているため、土地利用者との調整や狭隘な場所での施工方法の検討が必要となる。			防潮壁背後の狭隘な場所での施工方法など、各地区の異なる現場条件の制約に応じた施工計画を策定し、土地利用者との調整を図りながら進捗を図っていく。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名		港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり	4年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名				成果	コスト		
事務事業名		大江川地区地震・津波対策事業	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	大江川地区の防潮壁、汚染土壌の封じ込め箇所				連携課	環境担当
	意図(どういう状態にしたいか)	地震津波対策として、防護ラインを見直して防潮壁等を新設し、防護機能を強化する。 汚染土壌対策として、大規模地震時の液状化による噴砂を抑える。				事業期間	平成30年度～
概要		防潮壁等の新設 内容・規模:海上部防潮壁新設(排水ゲート含む)、陸上部防潮壁新設、昭和ふ頭北側止水壁新設 事業手法:防災・安全交付金、一般会計、特定施設整備負担金 汚染土壌対策 汚染土壌封じ込め箇所において、非液状化材で盛土・埋立を行う。				根拠法令等	社会資本整備重点計画 法、海岸保全基本計画
						実施義務	☒ 有 ☐ 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和5年度に実施した内容・結果		防潮壁整備については、海上部防潮壁の修正設計(基礎調査)を行った。また、陸上部防潮壁は引き続き護岸工事を行った。 汚染土壌対策については、令和6年1月に埋立立て免許を取得し、工事に着手した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	112,687	133,900	817,612	759,961	626,634	
人件費	千円	20,733	13,375	14,490	14,490	22,022	
合計	千円	133,420	147,275	832,102	774,451	648,656	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	達成度	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
大江川地区防潮壁整備 進捗状況(全6工程)	目標	2	4	5	5	6	未達成	以下項目のうち完了した工程数 ①防護ラインの検討 ②事業化調査 ③事業採択 ④設計 ⑤工事着手 ⑥整備	
	実績	2	3	5	5	5			
	【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)		順調 ・ やや遅れ ・ 遅れ					
汚染土壌対策の進捗状 況(全7工程)	目標	0	1	2	4	4	達成	以下項目のうち完了した工程数 ①基本設計 ②実施設計 ③環境影響評価 ④公有水面埋立免許取得 ⑤埋立護岸整備 ⑥盛土 ⑦排水施設整備	
	実績	0	1	2	2	4			
	【進行管理型】	事業進捗状況(5年間)		順調 ・ やや遅れ ・ 遅れ					
5年度までの達成状況に関する説明 (要因・課題)			防潮壁等の新設については、背後の土地利用者との調整に時間を要したことおよび労務資材の高騰により、目標をやや下回った。 汚染土壌対策については、目標通り進めることができた。						
必要性・有効性・効率性の検証			評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？		○	背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高いと考えている。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？		○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？		○	本事業は上位施策である「地震・津波対策の充実・強化」に貢献すると考えている。 令和5年度は整備は進んだものの、当初期待した整備完了までの成果は得られなかった。					
	期待どおりの成果が得られているか？		△						
効率性	最小のコストとなっているか？		○	コストが最小になるよう経済的な対策断面や施工方法の検討を行い事業を進めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	6年度以降の方向性		判断理由
	継続	成果	
		拡大	
		拡大	背後地域の生命・財産を守る重要な施策であることから、一層の進捗を図る必要がある。
今後の課題等			6年度以降の取組
防潮壁の整備に当たっては、周辺関係者との調整を行いながら事業進捗を図る必要がある。 汚染土壌対策については、名古屋市と共同して行う事業であることから、市と工程等について調整を図りながら事業進捗を図る必要がある。			防潮壁の整備については、令和6年度より海上部の工事に着手し、完成に向けて進捗を図っていく。 汚染土壌対策については、令和5年度より工事に着手しており、埋立て完了に向けて引き続き市と調整を行いながら進捗を図っていく。